

学校臨床力高度化系
専門科目：記述式総合問題

【解答・解答例】

設問 1（配点 100 点各問 20 点）

●自由進度学習

例：いわゆる一斉授業ではなく、学習内容や進度を子ども一人一人の興味・関心に合わせて決め、子どもが自力で学びを進めていく形態の学習方法。実際には特定の単元の中で、行われることが多い。

●思考ツール

例：図や表を使って、視覚的に分類や分析をする方法。目的や用途によってさまざまな種類がある。関連することを線で結んでいき考えを広げていくウェビング、共通点と相違点を分類するベン図などが代表的である。

●スクールカウンセラー

例：不登校、いじめ、対人関係のトラブル、発達障がいなど児童生徒が抱える問題に対して心理臨床の立場から助言や援助を行なう専門職。非常勤として配置されることが多く、継続的な関わりや適時性に課題を残している。

●GIGA スクール構想

例：1 人 1 台端末や通信ネットワーク等の学校 ICT 環境を整備・活用して教育の質を向上させ、全ての子どもたちの可能性を引き出す構想。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的とする。

●教務主任

例：校長の監督を受け、年間の教育課程の立案や、学期や月、週の計画を、学年や教科担当者等と連絡調整しながらとりまとめる。成績評価、出席簿や指導要録等も管理し、教科書配布や学力調査関係などについても携わる。

●こども基本法

例：令和 5 年 4 月施行。憲法及び子どもの権利条約にのっとり、子どもたちが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会を実現するため、子ども政策の総合的推進を目的とする。子どもの意見反映なども定める。

●インクルーシブ教育

例：障がい者の社会参加促進を目指し、その能力を発達させ、障がい者と障がいのない者が共に学ぶ教育の仕組み。特別支援学級や特別支援学校を否定するものではない。必要とする個人に対して合理的配慮が求められる。

●潜在的な（ヒドゥン）カリキュラム

例：通常教育課程には、はっきりと示されない暗黙の形で、学校生活に刷り込まれていく規範や価値観。子どもは教師の合図に沿って合理的に行動することを求められ、その結果として規格化されていく恐れがある。

【出題の意図】

設問2（配点100点各問50点）

中央教育審議会が次期学習指導要領に向けての論点整理が行われた。注目したいのが、教師と子どもに「余白」を作り出し、それを有効に活用するカリキュラムを目指している点である。

- (1) 学校臨床力高度化系初任期教員養成コースでは授業、生徒指導、学校経営の三面から教育実践を捉えることを重視している。「余白」の創出はこの三面から考えるべきものではあるが、ある程度の教員キャリアがないと生徒指導、学校経営の面から考えるのは難しい。そこで、もっともイメージがしやすいであろう授業面からのアプローチで「余白」の創出について問うている。
- (2) 「余白」を自由時間として捉えてしまうと、何を行ってもよいことになってしまう。「余白」を「豊かな学習」につなげるためには、様々なことを考える必要がある。現場に出た後もこのことを考え続けてほしいと思い、この問題を設定した。教師の指導性について言及があるとよい。同じような問題が議論されたゆとり教育に関しての言及や子どもの参加を提唱することも基本法への言及があるとさらによい。